

1. 教学マネジメントポリシー

本学の教育理念・目標で掲げる「自ら将来を開拓できる先端的な知識・技能の修得」「先端技術のみならずそれを広く社会で実践するための総合的な能力の修得」「主体性を持ち、地域に貢献するとともに世界に羽ばたく人材の育成」を確実に実施し続けていくため、全学的な教育指針として、ここに教学マネジメントポリシーを策定します。

(1) 教育内容の改革

- ①本学のすべてのカリキュラムは、ディプロマポリシーに基づいて策定されたカリキュラムポリシーに従って体系的に編成するものとします。カリキュラムの体系的な編成にあたっては、科目の段階（学修の順序）とレベルおよびディプロマポリシーに定める修得すべき能力・資質とカリキュラムとの関連性を体系的に示すカリキュラムマップ（科目系統図）により明確化します。
- ②ディプロマポリシーに基づくカリキュラムポリシーに従って、各授業形態（講義、演習、実験、実習など）が適切に配置されているか、ディプロマポリシーに明記された修得すべき能力に相応しい授業がバランスよく配置されているかを、教育課程レベル（学科・専攻等）において組織的に不断の点検と改革を行います。その際、カリキュラムマップを活用し、カリキュラム改革と授業内容および授業方法の改善、学修成果の把握・可視化を進めます。
- ③授業内容・授業方法、カリキュラムは、学問分野の進展や社会の要請・ニーズに応じて改編し、学生の学修成果や履修状況を踏まえて不断の改革を行います。

(2) 教育方法の改善

- ①教育の目的や授業の到達目標に照らして、講義、演習、実験、実習などの授業形態の適切な組み合わせとバランスをはかります。また、それぞれの教育内容に応じた適切な学修指導方法を採用します。
- ②ディプロマポリシーに基づくカリキュラムポリシーと各授業の関連を明らかにしたシラバスを作成し、記載項目と記載内容を定期的に点検し、授業内容・授業方法の改善をはかります。
- ③学修成果指標や成績評価基準を適切に定め、厳格で適正な成績管理を実施し、公表します。公表にあたっては、GPAやルーブリック評価など客観的な指標を設定します。

(3) 教育実施体制の確立

- ①学生の効果的な学修を推進するために、単位の実質化（授業時間外の学修の確保）を進めます。そのためにCAP制の継続的な実施や柔軟な学事歴と時間割の構築、学生自らが学修成果を振り返る仕組みの開発を行います。
- ②客観的なデータに基づく教育改革を行うために、教学IRを推進します。

(4) 教職員の資質・能力の向上

- ①教員の教育研究力向上のためのFD研修と教職員の専門的能力・資質向上のためのSD研修を計画的・組織的に実施します。
- ②FD・SDは各種研修会、各種講演会等の実施による推進が中心活動となりますが、これに限らず日々の業務の中で組織的に実施します。

(5) 教学マネジメント推進体制

- ①教学マネジメントセンターは、教学マネジメントの確立のために、「三方針（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）」の検証を行って見直し内容を提言するとともに、教学マネジメントポリシーに基づいた教学マネジメントを推進します。
- ②教学マネジメント推進委員会は、教学マネジメントポリシーに基づき、次の5項目を恒常的に改善し組織的に推進します。
「三方針」を通じた学修目標の具体化／授業科目・教育課程の編成・実施／学修成果・教育成果の把握・可視化／FD・SD、教学IR／情報公表
- ③教務幹事会は、教育課程や授業時間割の編成、履修方法や学事日程に関する事項など、教学マネジメントポリシーに基づいた教育を確実に実施するための実務的な業務・活動を行います。
- ④教学マネジメントポリシーおよび教育改革の進捗状況については、教授会に報告し、継続的に点検・改善を行います。

2. アセスメント・ポリシー

学生の学修成果を可視化することで本学の教育成果を測定・評価し、これをふまえて本学の教育を恒常的に改善していくための方針として、本学のアセスメント・ポリシーを策定します。

具体的には、卒業認定・学位授与の方針であるディプロマ・ポリシー等で掲げられている達成すべき質的水準について、学修の評価（成績データ）だけでなく、学生を対象に実施する各種アンケートや学修ポートフォリオ等のデータ分析によってアセスメントを行います。アセスメントについては、機関レベル（大学全体）、課程レベル（学部・学科・コース）、科目レベル（各授業）の三つのレベルで、下表のような方法を用いて、測定・評価します。そして、測定・評価結果を教育改善につなげていきます。

なお、アセスメントの実施組織については、科目レベルの評価は個々の授業ごとに担当教員が、教育課程レベルの評価は各学科の教学マネジメント推進幹事及び教務幹事が、機関レベルの評価は教学マネジメントセンターがそれぞれ中心となり、各レベルでの自己点検の実施及びレベルを跨いだ情報共有を実施します。

区分	入学前・入学直後 (アドミッション・ポリシー)	在学中 (カリキュラム・ポリシー)	卒業時・卒業後 (ディプロマ・ポリシー)
機関レベル (大学)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学試験 ・ 調査書、推薦書等（該当のみ） ・ 外部語学検定試験（該当のみ） ・ プレースメントテスト ・ 新入生アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学修の評価（GPA等）※ ・ 単位修得状況 ・ 外部語学検定試験 ・ 学生実態調査 ・ 退学率、休学率 ・ 授業アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学位授与率 ・ 学修の評価（GPA等） ・ 単位修得状況 ・ 外部語学検定試験 ・ 就職率、進学率 ・ 卒業・修了時アンケート ・ 就職先アンケート
教育課程レベル (学科・専攻等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学試験 ・ 調査書、推薦書等（該当のみ） ・ 外部語学検定試験（該当のみ） ・ プレースメントテスト ・ 新入生アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学修の評価（GPA等）※ ・ 単位修得状況 ・ 学生実態調査 ・ 退学率、休学率 ・ 授業アンケート ・ 学修ポートフォリオ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学位授与率 ・ 学修の評価（GPA等） ・ 単位修得状況 ・ 就職率、進学率 ・ 卒業論文、修士論文 ・ 卒業・修了時アンケート
科目レベル (個々の授業)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学試験 ・ プレースメントテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学修の評価（単位修得状況）※ ・ 授業アンケート ・ 学修ポートフォリオ 	

※ 学修の評価を正しく行うことがアセスメント・システムの根幹であると考えます。「厳格な成績評価・学修の評価」に向けて、全授業において適切な評価を可能とするためには『シラバス』の正しい運用が必須です。『シラバス作成を通じたPDCAサイクル』を全ての授業担当教員が意識することが重要であることから、毎年実施するシラバスチェックを厳正に行います。さらに、シラバスに記載する授業の到達目標を適切に評価するためには、学力の3要素ごとに切り分けた評価方法を用いて、多面的な評価を行うことが必要となります。これを実現するため、ルーブリックを用いた評価等を積極的に活用します。また、学生の自己評価も学修の評価の一部として位置づけることも積極的に取り入れます。